

お墓を知ろう

Part 1



◎お墓はいつ求めるのか？

お墓をいつ建てたらいいのかという決まりはありません。大切なのはご供養する気持ちです。仏教では三世の命を説き、一番大切なのは現世、つまりいま生きている人の供養の気持ちです。絆で結ばれる永遠の想いがご供養の精神といえます。

◎墓地の種類は？

①寺院墓地

お寺の境内にあり、寺院が管理している墓地のことです。
お寺の檀家になることが前提となります。

②公営墓地

地方自治体が管理、運営する墓地のことです。
宗教的制約がなく費用が安いことが利点ですが、
申し込み条件の制約や希望者による抽選など、購入が困難なのが現状です。

③民営霊園

財団法人・社団法人や、民間が宗教法人の委託を受けて運営しています。公営墓地より多少割高ですが、申し込み制約はあまりありません。



◎墓地を買うのにどんな費用が必要なの？

①永代使用料

墓地を買うということは、土地を買うのではなく永代使用权を買うということです。契約内容をよく検討してから購入しましょう。

②墓石費用

石塔・外柵の石本体と工事費が必要です。石の種類で希少価値や、硬度・吸水率の違いがあり価格に幅がありますが、自分にあった石を選びましょう。

③管理費用

毎年支払う施設の維持・管理などにかかる費用です。管理費は滞納すると使用权を取り消されるなどの問題が起こります。忘れないようにしましょう。

◎相続税の負担を軽減できるの？

お墓や仏壇などは、どんな高価なものでも相続税の対象にはなりません。生前に購入されることは節税になります。不動産取得税や固定資産税もお墓にはかかりません。後に残った家族の負担を軽くすることができます。

◎寿陵とは？

生きている間にお墓を建てることを寿陵墓、生前墓といいます。寿陵とは家に幸せをもたらす長寿が約束されるといわれ、民間の霊園では半数が生前に墓を求めるところもあるようです。

最近では縁起だけでなく、家族に負担をかけたくないとか、気に入った墓石を自分で選びたいなどの考えで、生前に寿陵墓を建てるといわれています。

お墓を知ろう

Part 2

◎お墓の形も色々あるの？

<和型墓石>

日本の墓地の多くはこの伝統的な和型墓石です。江戸時代から広く用いられている主流で、安心感があって美しく親しみやすさがあります。一番上の棹石に家名などを彫ったりします。

<洋型墓石>

格調高くモダンで、最近は多く見られるようになりました。

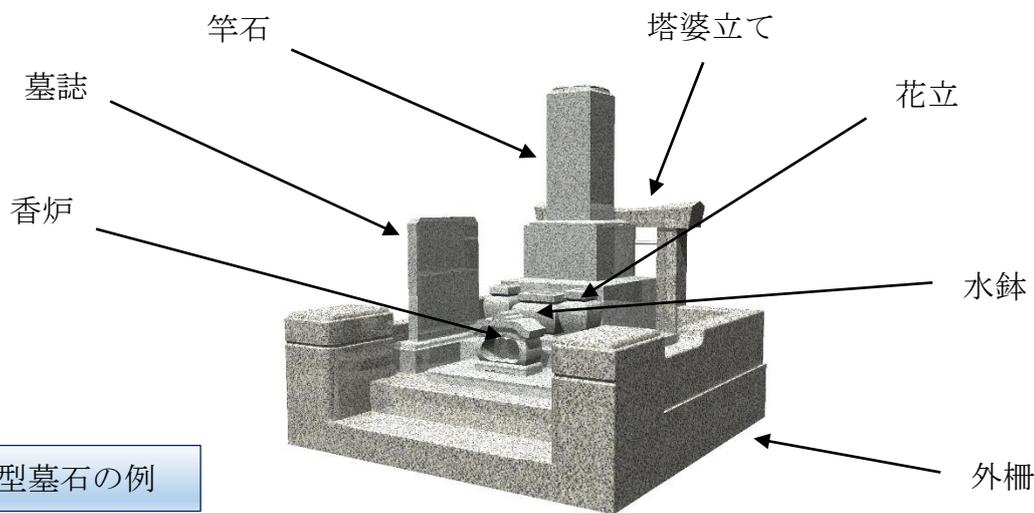
「絆」とか「愛」や「心」といった自分の好きな文字を彫ったり、桜の花などのレリーフを施したりします。

<ニューデザイン墓石>

モニュメントのような墓石のことで、故人の自然観や宇宙観、好きだった物などを自由な発想で墓石にします。自分らしい人生の総仕上げのお墓にしたいという考えがあるようです。

◎お墓の構造はどうなっているの？

写真のように、一番大切な棹石、外回りを外柵、花立、水鉢、香炉、墓誌、塔婆立てなどから構成されています。



◎お墓は建て替えできる？

長い時間の経過とともに石の風化が生じたりします。こんな時には研磨などのメンテナンスによるリホームをするか、新しく建て替えが必要か『お墓ネットストア』にご相談下さい。

- 石塔のみ建て替えたい
- 石を綺麗にして光沢を取り戻したい
- 苔(こけ)や汚れを落としたい
- 追加彫りをしたい 家紋を入れたい
- 文字が見えなくなっている

メンテナンスすることをお勧めします

今すぐ安心ダイヤルへ！

0120-52-1483

お墓を知ろう

Part 3



◎お墓参りに行こう

お墓参りは直接足を運んで、お墓に語りかけながら故人を偲ぶ習慣です。本来はいつでもいいのですが、一般的には春のお彼岸（春分の日）、お盆（盂蘭盆会）、秋のお彼岸（秋分の日）や命日、年回忌などです。故人の誕生日や記念の日など、故人を偲はれる日ならいつでも、お墓参りに行きましょう。

◎掃除と作法

お参りする前には必ず掃除をします。草むしりやゴミ拾いなど掃除をした後に水をかけて、たわしなどで磨き、布で拭き取りましょう。掃除が終わったら、花立てに水を入れお花を飾り供物をお供えます。まずローソクに火を灯し、そこから線香に火をつけてお供えし、墓石に水をかけてお参りします。清浄な水をかけることで清められるとされています。墓石よりも体を低くし、しゃがんで合掌礼拝します。お参りが終わったら、お供物は荒らされないように持ち帰るのがマナーです。

◎何を持って行くの？

線香、ローソク、マッチ、お供物、お菓子、生花などを持参しましょう。たわし、布、ビニール袋など掃除道具も忘れずに。手桶、柄杓、バケツ、ほうき・ちりとりなどはお寺や霊園で貸してくれます。



◎一周忌はいつ、どうすればいいの？

故人が亡くなって一年後の命日が一周忌です。家族や親族のほか、故人と縁の深かった友人や知人を招いて法要を営みます。法要は命日に行うのが理想ですが、実際には参列者の都合もあり、土日や祝日に行うことが多いようです。その場合、命日より早目に行うことが慣習とされています。この一周忌までが喪中で、この日をもって喪が明けることとなります。

◎お盆って？

盂蘭盆会のことをいいます。釈迦の弟子の目連が、死後餓鬼道に落ちた母親を救おうと、僧侶達の夏の修行期間のあける7月15日に、多くの僧や苦しむ人たちに飲食物などを施し、母が往生したことに由来します。旧暦の7月15日は父母や先祖に報恩感謝を捧げる供養する日となりました。

◎お彼岸は？

彼岸会ともいいます。春は3月21日頃の春分の日をはさんで前後3日間ずつ、秋は9月23日頃の秋分の日をはさんで前後3日間ずつの一週間をいいます。迷いの多いこの世（此岸）に対して、仏の理想の世界である向こう岸（彼岸）、つまり悟りの世界のこと、インドや中国にはない日本独自の行事です。